

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表年月日:令和7年 3月 31日

事業所名 また明日デイサービス

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点 課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○		共生型のため、同じスペースで、過ごしている。席の移動を行い、利用者同士の活動の妨げにならないように工夫している。
	2	職員の配置数は適切である	○			共生型サービスであり、高齢者等も支援している。人員不足が生じないようどの職員も対応できる体制を取っている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			可能な限りバリアフリー化している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			定期的に会議や研修を行っている。全職員が集まることが勤務上難しいため、記録や申し送り事項の可視化を行い出勤日に確認している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか		○		頂いたご意見を職員が共有し改善策を話し合い業務改善につなげている。送迎時に家族との会話の中から意見、要望を聞きとり、できることから取り組んでいきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			また明日通信で公表。ホームページにも掲載している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○	現在、第三者評価は行っていないが、運営や支援について助言をもらい、業務改善に繋げて行けるような体制を考えている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			定期的な会議の中でも研修を実施している。外部研修や勉強会などにもオンライン研修にも参加している。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			連絡帳でのやり取りや日々の様子、モニタリング等も含め計画相談員とも連携し個々に合った計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			独自の物を使用している。内容は適宜改善している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている		○		個別、集団プログラムを設定するようにしている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している		○		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			行事の多い時季には体調不良など起こしやすいため、本人の希望を聞きながら課題を減らすなど行っている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			個別、集団プログラムを設定するようにしている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			連携ノートや伝言メモ等で申し送り事項の確認をしている。課題や目標についても確認し共有している。必要に応じて話し合いを行い共通認識を持つようにしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			日々の気づきをケース記録に残し、いつでも確認できるようにしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			日々の気づきをケース記録に残している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している		○		必要に応じて行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点 課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			要請に応じて管理者や児童発達管理責任者が参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			学校への送迎時や保護者に聞き取りや確認を行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		該当する児童がいらないが今後希望があれば対応を検討していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			要請があれば情報提供は行うようにしている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			要請があれば情報提供は行うようにしている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			可能な限り研修に参加するようにしている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○	行事のお知らせや作品の交換会など計画を立ててみる。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		放デイが参画できる部会等がない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			連絡ノートを使用し気づきを記載している。送迎時にも様子伝えている。長期休みや行事等に参加した際には日々の様子を写真に撮り記録に付け加えている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			支援の中で気になったことはその都度伝えるようにしている。
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に丁寧に説明するように心がけている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			家族からの相談があった際には連絡ノート、電話や送迎時に対応するようにしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○	今後、家族の要望を聞きながら開催を検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			苦情相談窓口を設置。些細な不満に対しても誠意をもって対応するようにしている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			また明日通信の発行をしている。InstagramやFacebookに活動をのせ情報発信をしている。
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			個々にあった情報資料を活用したり、特性に応じた対応を心がけている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			お知らせや通信を発行したり、声かけ等など行っている。
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			職員は研修を行っている。その後、職員、保護者にお知らせを配布している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			年に2回実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			虐待防止・権利擁護研修などへ参加し伝達研修もしている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		対象児童がいらないが、今後必要に応じて対応していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			保護者・本人から聞き取りしアレルギーの有無を確認している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			ヒヤリハット報告は随時行い、記録して、職員会議で情報共有し再発防止に努めている。